

対話による

羽村市の10年後を考える取組みについて

～第六次羽村市長期総合計画の策定に向けて～

【企画総務部長期総合計画担当】

羽村市では、第六次羽村市長期総合計画の策定に向け、羽村市の将来のまちの姿（10年後のまちの姿）を検討するため、羽村市の“宝”や“未来に残していきたいもの（こと）”、市の強みなどを“対話”の中で発掘するワークショップを実施しました。

また、市職員においては、若手職員で構成するプロジェクトチームが、将来のまちの姿を検討し、成果発表会を行いました。

※現在、ワークショップの内容のまとめ作業を進めているところであり、この資料では、概要（速報）をお知らせしています。

一般市民向け ワークショップ

羽村市の10年後を考える市民ワークショップ 見つけよう、あなたの理想の未来の羽村（全3回実施）

子育て世代 ワークショップ

おしゃべりCafe in Hamura Zoo 語ろう「羽村の宝！&10年後の羽村！」

はむら家族プロジェクト コラボ企画



【概要】・実施日時 ①R2年10月17日(土)10時～正午（ゆとろぎ） 参加者：12人
会場 ②R2年10月30日(金)19時～21時（市役所） 参加者：13人
③R2年11月8日(日)14時～16時（市役所） 参加者：12人
・コーディネーター 松本祐一氏（多摩大学経営情報学部教授）

【内容】

3つのグループに分かれ、グループごとに対話をすすめました。
≪第1回≫羽村市の「強み」「弱み」「ピンチ」「チャンス」を話し
ながら、未来につながるキーワードを考えました。

＊こんな意見がありました＊

「あるものを活かす」、「眠った伸びしろを活用」など

≪第2回≫10年後、「羽村でこんなことができたらいいな！」を集め、
分類しながら、10年後の理想の姿を考えました。

＊こんな意見がありました＊

- ・市民のアイデアを活かし、人々が集まりやすいまち
- ・ソフトとハードの調和を活かして安心な生活
- ・コミュニティバスはむらんを活かし、だれもが便利な生活ができるまち

≪第3回≫第2回で出た10年後の理想の姿を実現するために、誰が
何をやるのか、自分は何をできるのか（やりたいか）など
を考えました。



オンラインでの
ワークショップは
初開催！

若者世代向け ワークショップ

オンラインで語ろう、羽村市の10年後 羽村のワカモノワークショップ

【概要】実施日時 R2年11月18日(水)19時～21時
参加者 20代～30代の市内在住・在勤の方 5人
コーディネーター 松本祐一氏（多摩大学経営情報学部教授）

【内容】

ウェブ会議ツール「ズーム（Zoom）」を活用し、「自分たちが10年後住みたい
羽村市はどんなまちか」をテーマに、「羽村のイメージ」「自分たちの未来の理
想の暮らし」「羽村のイケてるところ、イケてないところ」などについて、若者
の目線で検討しました。

＊こんな意見がありました＊

- ・羽村は空間的なゆとりがちょうどいい。ちょうどいいバランスでお店や施設などが配置されている。
- ・「コンパクトでちょうどいい街」という市の魅力を伝えるのが難しい。
- ・おしゃれなお店があるのに、情報が入ってこないのは残念ポイント。 など

市・若手職員の 取組み

若手職員23人が、10年後の羽村市の“まちのコンセプト やビジョン”などを発表しました

若手職員を中心に職員プロジェクトチームを立ち上げ、8月から6回にわたり、10年後の羽村市のまちの姿や、具現化するための取組みなどについて、
マーケティング手法などを活用しながら検討しました。



プロジェクトチームに参加したのは、入庁2年目から8年
目の23人の職員です。5つの班に分かれ、羽村市の強みや
弱み、ピンチとチャンスを踏まえたSWOT分析や、「まちの
コンセプトやビジョン」「市のミッション」の検討、未来像
を具現化するための具体的な取組みなどをそれぞれのテーマ
で検討した成果を、市の部長などにプレゼンテーションし、
意見交換を行いました。

≪テーマ≫

- ◆ Uターン促進（定住人口の増加）
- ◆ 「働く」
- ◆ アフターコロナにおける防災の在り方
- ◆ 稼げる行政
- ◆ デジタル時代における「変化への対応」